

未婚者の結婚に関する意識の多面性 Multifaceted Attitudes toward Marriage among Singles

釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）

Saori Kamano (National Institute of Population and Social Security Research)

s-kamano@ipss.go.jp

中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

Mariko Nakamura (National Institute of Population and Social Security Research)

nakamura-mariko@ipss.go.jp

本報告の分析に用いる出生動向基本調査は、厚生省人口問題研究所（現在の国立社会保障・人口問題研究所）によって、出産力調査という名称で1940年にはじめて実施され、1952年の第2回調査以降、ほぼ5年おきに行われている。当初は夫婦の出生力の実態を明らかにする目的で夫婦のみを調査をしていたが、1982年調査（第8回）からは1970年代半ば以降の少子化の進行を受け、その主因となっていた晩婚化と未婚化の背景を明らかにする必要性が生じたことから、独身者にも調査をするようになった。独身者調査では、独身者の結婚・家族に関する考え方や生活状況をとらえることを目指しており、2015年の第15回調査は、独身者の調査としては8度目となる。

本報告では、この独身者調査から得たデータをもとに、結婚経験のない18～39歳の未婚者に注目し、結婚に関してどのような考え方を持っているのかを、過去との比較をしつつ、複数の側面から明らかにする。

まず、本人の結婚の意思について、①いずれ結婚するつもりなのか（「結婚の意思」）、②結婚するにあたって重要なのは年齢なのか相手なのか（ある程度の年齢までに結婚しようと思うのか、それとも理想の相手が見つかるまではしなくてもかまわないと考えるのか、「年齢重視か相手重視か」）をみる。次に、結婚意思のある未婚者の結婚のとらえ方について、③結婚にはどのような利点があるかと考えるのか（「結婚の利点」）、逆に④独身生活にはどのような利点があるかと考えるのか（「独身生活の利点」）、⑤仮に一年以内に結婚するとしたら何が障害となると考えるのか（「一年以内の結婚への障害」）、⑥独身であることにはどのような理由があるかと考えるのか（「独身である理由」）の4側面からみる。次いで、⑦両親や友人など身近な人の結婚生活に対する評価をとらえる（「身近な人の結婚の評価」）。また、未婚者の根底にある価値観として、⑧生涯独身であることに対する意識をみる。最後に、⑨結婚意思のない未婚者の過去の結婚意思、今後結婚意思が変わる可能性、変わった場合の理由をみる。

それぞれの結果は、以下のとおりである。

- ① **結婚意思**：生涯を通じての結婚の意思をみると、「いずれは結婚するつもり」だと考える未婚者の割合は男性では84.1%、同女性では87.2%である。「一生結婚するつもりはない」と答える未婚者は1980年代から増加する傾向にあり、2015年調査では、男性では13.4%、

女性では9.6%である。

- ② **年齢重視か相手重視か**：結婚する意思のある未婚者のうち、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と考える割合は、1990年代を通して減少し、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考える割合を一旦下回ったが、2005年調査で増加傾向に転じ、2015年調査では男性では53.1%、女性では56.8%である。
- ③ **結婚の利点**：結婚することに利点があると感じている男性は、1980年代からおおむね6割台で推移しており、2015年調査では64.2%である。女性では2000年代から増加傾向にあり、2015年調査では76.7%となった。具体的な利点としては、「自分の子どもや家族をもてる」を挙げる人の増加傾向が1987年調査からほぼ一貫して続き、2015年調査では男性35.5%、女性47.9%である。
- ④ **独身生活の利点**：独身生活に利点があると考えている割合は、男性では83.2%、女性では88.1%である。具体的な利点として、男女ともに「行動や生き方が自由」を挙げる人が圧倒的に多く、男性では69.7%、女性では75.5%である。
- ⑤ **一年以内の結婚への障害**：2015年調査では、一年以内に結婚するとした場合、男性66.9%、女性68.6%の者が何らかの障害があると回答した。「障害」の内訳をみると、「結婚資金」を挙げた人が最も多く男性では40.3%、女性では38.8%である。これらの割合は1980年代からほとんど変化していない。
- ⑥ **独身でいる理由**：結婚意思のある未婚者に独身でいる理由をたずねたところ、若い年齢層では「まだ若すぎる」、「まだ必要性を感じない」「仕事(学業)にうちこみたい」など、結婚するための積極的な動機がないこと(“結婚しない理由”)が多く挙げられている。
- ⑦ **身近な人の結婚の評価**：友人の結婚生活を幸せそうだという割合は、男性では56.1%、女性では66.1%である。両親の関係については、男女とも半数が肯定的にとらえている。(いずれも非該当を除いて集計。)
- ⑧ **結婚に関する意識**：「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」という意見に対し、2015年調査では、男性の64.3%、女性の57.3%が賛意を示す。
- ⑨ **結婚意思のない未婚者について**：「一生結婚するつもりはない」未婚者に、「これまでにいずれ結婚するつもりと思ったことがあるか」をたずねると、「ある」と回答したのは男性の41.4%、女性の50.9%である。今後結婚の意思が変わる可能性があるかをたずねると、男性の44.1%、女性の49.8%が「あると思う」あるいは「あるかもしれない」と回答した。結婚意思が変わるとした場合の理由として、相手の出現、経済面の改善、本人や家族の事情の変化を挙げる者が多い。

上述の未婚者の結婚に関する意識の各側面について、男女別に、年齢階級と就業形態に分けた上で経年変化をみると、変化の傾向は一様でないことがわかった。また調査時点で結婚意思のない未婚者の意思が変わるとした場合の理由と、結婚意思のある者が独身でいる理由として挙げる理由には、「相手(がない)」「出会い(がない)」という共通軸の存在が確認された。